

## 中・高生の学校における防災学習に対する意識 Student Attitude Survey of Disaster Study in School

○ 城下英行・河田恵昭  
○ SHIROSHITA Hideyuki, KAWATA Yoshiaki

After Kobe earthquake, disaster education has been getting the eye of our society. Especially disaster education in school is very efficient to spread the knowledge of disaster reduction for wide array of people. And, there are many findings of disaster education, but in terms of "disaster learning", there is hardly finding. But, to enhance disaster education in school, it is very important to survey student attitude of disaster learning. Thus, we surveyed in Wakayama city. As the results, we found that we have to study about how to make the best of "hours for comprehensive studies" for disaster education in consideration of other themes.

### 1. はじめに

阪神・淡路大震災以降、災害対策を担う主体は、我々市民一人一人であるとの認識が広がりつつある。それに伴い、防災に関する知識の獲得が不可欠とされ、なかでも学校における防災教育は、多くの生徒を対象に一斉に教育ができるといったことに加え、継続的に実施されることで長期的には幅広い世代の人々の防災に関する知識の獲得に繋がることなどから注目されている。このため、学校における防災教育に関する調査、研究が盛んに行われつつあるが、学校で学ぶ生徒らが防災「学習」についてどのような意識を持っているのかについての調査はこれまでほとんど行われていない。学校における防災学習について、生徒側の意識についても把握しておくことが、今後の学校における防災教育の推進に必要であろう。そこで、生徒の防災学習に対する意識調査を実施したので、その結果について報告する。

### 2. 調査概要

2006年11月1日・2日、和歌山県他の主催で、アジア防災教育子どもフォーラムが和歌山市において開催された。このフォーラムの様子を観覧に来た生徒（両日で約2,000名）を対象に、A4版1枚、7項目からなる質問紙調査を実施した。調査項目は、

1. 学校における防災学習経験の有無
2. 防災学習をした教科等
3. 防災学習に対する有用感
4. 今後の防災学習の希望
5. 今後の防災学習を希望する教科等
6. 総合的な学習の時間で希望する学習テーマ

### 7. フェイス項目

である。会場出口に設置された回収箱で回収する方法を採り、825名からの回答を得た。そのうち、無効回答及び小学生の回答を除いた、中学生297名、高校生494名の回答を本稿での対象とした。なお、フォーラムの観覧に来た学校は、防災教育に関して必ずしも特別な取り組みをしている学校ではない。

### 3. 結果と考察

防災学習の経験は、中学生、高校生ともに9割以上の生徒があると回答した。また、防災学習をした教科等は、中学生、高校生ともに「総合的な学習の時間」が最も多かった。

防災学習に対する有用感では、防災学習の経験者のうち約9割の生徒が、今後の生活に役立つと考えていることが分かった。しかし、今後の防災学習の希望については、中学生、高校生ともに有用感に比べ低くなっている。

また、防災学習を希望する教科等としては、総合的な学習の時間が中学生、高校生ともに最も多く、必修教科は中学生、高校生ともに1割に満たなかった。一方で、総合的な学習の時間で最も学びたいテーマとして防災を挙げたのは、中学生で約3割、高校生で2割程度であった。

さらに、中学生と高校生との比較の結果、有用感及び防災学習の希望については中学生の方が肯定的な評価を下していることが判明した。

以上の結果から、今後の学校における防災教育の推進のために、他のテーマとの関連を考慮した総合的な学習の時間の活用のあり方に関する検討が必要であることが明らかとなった。